

合唱、チェンバロと
ソロ・カンタータの夕べ

盛岡いのちの電話
チャリティーコンサート

開局10周年記念

2001年3月13日(火) 午後7時
盛岡市民文化ホール・小ホール

主催 社会福祉法人盛岡いのちの電話
開局10周年記念実行委員会

主催者ごあいさつ

本日は、盛岡いのちの電話開局10周年記念実行委員会主催による、「合唱、チェンバロとソロ・カンタータの夕べ」盛岡いのちの電話チャリティーコンサートにご来場賜り、厚く御礼申し上げます。

本日演奏いたします盛岡バッハ・カンタータ・フェラインは、来春1月に25周年記念演奏を目指して精進を重ねている合唱団です。また、ソリストとして出演される佐々木正利先生、佐々木まり子先生、劔持清之先生は、地元盛岡を拠点に、日本全国、ひいては世界各国を舞台に演奏活動を行っており、教育界での指導にも定評があります。

今回、盛岡いのちの電話開局10周年を記念したチャリティーコンサートへのご出演を快諾下さいまして、3回連続となるコンサートが実現いたしました。早春のひとつとき、合唱、チェンバロ独奏と、アルト、テノールそれぞれのソロ・カンタータの調べを、どうぞお楽しみ下さい。

なお、益金はいのちの電話活動のための寄付金となります。皆様のご協力を心から感謝いたします。ありがとうございました。

おわりに、ご来場の皆様と、いのちの電話事業をご支援の関係各位共々、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン及びソリスト各位の益々のご精進とご活躍をご期待申し上げます。

2001年3月13日

社会福祉法人盛岡いのちの電話
後援会会長 齋藤育夫

【プログラム】

1. Ernst Pepping “Jesu, deine Passion” vier Stimmige Chor (SATB) a cappella
エルンスト・ペッピング「イエスよ、汝の受難は」 無伴奏混声4部合唱
 2. Antonio Lotti “Crucifixus a 8” acht Stimmige Chor (SSAATTBB) mit Orgel
アントニオ・ロッティ「十字架につけられ」 混声8部合唱 オルガン伴奏 (細田彩子)
 3. Gioachino Rossini “O saltaris Hostia” vier Stimmige Chor (SATB) a cappella
ジョアッキノ・ロッシーニ「ああ救いのいけにえよ」 無伴奏混声4部合唱
 4. Felix Mendelssohn Bartholdy “Verleih uns Frieden” vier Stimmige Chor (SATB) mit Orgel
フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ「主よ、我らに平安を与えたまえ」
混声4部合唱 ソプラノ (藤崎美苗) バス (小原一穂) オルガン伴奏 (細田彩子)
 5. Georg Melchior Hoffmann “Schlage doch, gewünschte Stunde” BWV53 Alt-solo mit Orgel
ゲオルク・メルヒオル・ホフマン カンタータ第53番「いざ、待ち望みたる時を告げよ」
アルト独唱 (佐々木まり子) チェンバロ伴奏 (剣持清之)
 6. Johann Kaspar von Kerll “PASSACAGLIA”
ヨハン・カスパー・ケルル「パッサカリヤ」
Joseph-Hector Fiocco “Adagio” Cembalo-solo
ヨゼフ・ヘクトル・フィオッコ「アダージョ」 チェンバロ独奏 (剣持清之)
 7. Johann Sebastian Bach “Ich habe genug - Schlummert ein, ihr matten Augen” BWV 82a
Rezitativ-Arie Ten-solo mit Orgel
ヨハン・セバスティアン・バッハ カンタータ82番a (アンナ・マグダレーナの為の音楽手帳) より
レチタティーヴォ「満ち足りて心安らかなれ」- アリア「眠れ、疲れし眼よ」
テノール独唱 (佐々木正利) チェンバロ伴奏 (剣持清之)
- Pause 休憩
8. Johann Sebastian Bach “Widerstehe doch der Sünde” BWV 54 Arie-Rezitativ-Arie Alt-solo mit Orgel
ヨハン・セバスティアン・バッハ カンタータ第54番「いざ、罪に抗うべし」
アリア「いざ、罪に抗うべし」- レチタティーヴォ「極悪なる罪のさがは」-
アリア「罪を行う者は悪魔より出ず」
アルト独唱 (佐々木まり子) チェンバロ伴奏 (剣持清之)
 9. Heinrich Schütz “Die sieben Worte Jesu Christi am Kreuz” SWV 478
fünf Stimmige Chor (SATTB) sechste Solisten (SAATTB) mit Oergel
ハインリッヒ・シュッツ「十字架上のイエス・キリストの七つの言葉」
混声5部合唱 6人のソリスト オルガン伴奏 (剣持清之)
福音史家：ソプラノ (菊池葉子) アルト (今野早苗) 第1テノール (大森元希)
イエス：第2テノール (高橋剛)
左側の罪人：アルト (小田島千恵) 右側の罪人：バス (小原竜太)
 10. Heinrich Schütz “Also hat Gott die Welt geliebt” SWV 380
aus Geistriche Chormusik fünf Stimmige Chor (SATTB) a cappella
ハインリッヒ・シュッツ 宗教合唱曲集より「かくも神は世を愛したまえり」 無伴奏混声5部合唱

指揮 佐々木 正利

合唱 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

佐々木 まり子 (アルト・ソロ)

東京芸術大学声楽科卒業、同大学院修士課程独唱専攻修了。毎日学生コンクール西日本1位。NHK新人演奏会出演。伊藤亘行、小林道夫、森明彦の各氏に師事。1980年にデットモルト北西ドイツ音楽大学に留学し、H.クレッチマール、H.ケールマン両教授に師事。ドイツ・リート、オラトリオ歌唱法ならびにドイツ語舞台発音法の研鑽を積む。帰国後も、H.ヴィンシャーマンとバッハ「クリスマス・オラトリオ」で共演したのをはじめ、バッハ、ヘンデルのカンタータ、オラトリオ演奏会に多数出演。温かく豊かで深みのある歌唱によって、東京を中心に全国各地で活躍している。1993年9月にはA.ギーベル女史とのメンデルスゾーン「パウロ」に出演、10月にはH.ヴィンシャーマン指揮によるドイツ・バッハゾリステンの「マタイ受難曲」のアルト・ソリストとして高い評価を得た。近年は全日本合唱連盟主催のおかあさんカンタータにて発声講座の講師を務める。また月が丘教会のチャペルコンサートを長年企画、指揮している。現在、女声合唱団・グレイセスもりおか、アンサンブル・コン・フォーコ指揮者。東北大学混声合唱団、岩手大学合唱団、盛岡子供劇団CATSきゃあ各ヴォイス・トレーナー・グルッペ・ベッヒライン会員。

劔持 清之 (チェンバロ、オルガン)

国立音楽大学卒業。伴奏ピアニストとして演奏活動を始め、国立音楽大学教授佐藤峰子氏主催重唱研究会専属伴奏者、同氏の演奏会での伴奏を務め研鑽を積む。パンセ・ア・ラ・ミュージック社の声楽教材「コンコーネ 50 番」伴奏テープ録音。チェンバロを西川清子氏に師事し、チェンバロ奏者、通奏低音奏者として活動の場を広げ、1985年ビデオ・ディスク「チェンバロのすべて」録音。1986年より盛岡在住。1992年より盛岡バッハ・カンタータ・フェラインのオルガニストを務め、ドイツ演奏旅行での通奏低音、佐々木正利氏、岩城宏之氏、H. J. ロッチュ氏指揮の盛岡バッハ・カンタータ・フェライン20周年記念演奏会において通奏低音を務める。他にも各種演奏会において、チェンバロ、通奏低音、伴奏ピアニストとして活動の場を広げている。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン・オルガニスト。グルッペ・ベッヒライン会員。盛岡大学短期大学部助教授。岩手大学教育学部音楽科非常勤講師。

佐々木 正利 (指揮、テノール・ソロ)

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。須賀靖元(声楽)、小林道夫(演奏法)、服部幸三(音楽学)、森明彦(発声法)、松本民之助(作曲)、岳藤豪希(宗教音楽)の各氏に師事。1973年にバッハ・クリスマスオラトリオの福音史家で楽壇デビューして以来、バッハをはじめとする宗教音楽のスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。1979年シュトゥットガルトに渡り、L・フィッシャー教授に師事。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年までデットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、H・クレッチマール教授に師事。在独中は欧州各国の演奏会に招かれ、特に1980年ウィーン楽友協会ホールでのマタイ受難曲では『若き日のP・シュライヤー』と新聞各紙で絶賛される。帰国後も世界、日本の著名オーケストラのソリストとして起用される。また世界的バッハ指揮者であるH.ヴィンシャーマン率いるドイツ・バッハゾリステンの演奏会を初め、幾多の演奏会に出演して信頼を勝ち得ている。1985年ザルツブルク音楽祭に招かれ、バッハ・マニフィカト等で絶賛を博した。現在までリサイタル21回を数え、レコード・CDも多数リリース、またテレビ、FM等にも度々出演している。

1970年東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの創設に携わり、多くの後進を育てるとともに指揮者としての活動を開始。以後、約30年にわたって主に宗教曲の演奏に力をみせ、そのいずれもが名演の誉れ高い。特に盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団等を率いての6度にわたるドイツ公演では『シュツツ、バッハの世界的担い手』とした最大級の賛辞が新聞各紙に掲載される。1994年長年にわたる顕著な演奏・教育の業績に対し、第47回岩手日報文化賞(学芸部門)が贈られ、昨年8月にはアメリカ・イオンド大学より名誉博士号が授与された。岩手大学教育学部音楽科教授。二期会会員。グルッペ・ベッヒライン会員。日本声楽発声学会理事。日本発声指導者協会常任理事。仙台バッハ・アカデミー理事。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、仙台宗教音楽合唱団、岡山バッハ・カンタータ協会、岩手大学合唱団、東北大学混声合唱団各常任指揮者。

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン (合唱)

1977年「カンタータを歌う会」として発足。以来、一貫してJ.S.バッハの作品を中心としたドイツ・バロック合唱曲の研究、演奏を行っている。その演奏が、1991年ドイツにおいて「作品の語感、音、そして精神の完熟」という現地新聞の批評を受けるに至るまでには常任指揮者、佐々木正利のドイツ・バロック音楽に対する卓越した見識に基づく、熱意溢れる指導の積み重ねがあった。佐々木は超一流のエヴァンゲリリストとして評価されるその発音、語感、様式感をもう一つのライフワークである合唱団の育成に注ぎ込み、その結果「言葉が生きて」と音楽が生きて」とは歌の世界では同義語である」というカンタータ・フェラインの音楽信条が演奏上の身上となるに至ったのである。

その後、H.ヴィンシャーマン、H. J. ロッチュ、J. ツィルヒ、岩城宏之等、世界的指揮者との共演を重ね、各指揮者より、ドイツ・バロック音楽を音楽的かつ人間的に表現できる合唱団として、熱い評価を得るようになった。この評価は、声の充実を追求する合唱団や、古楽器的な歌唱法を駆使して鮮烈な表現を目指す合唱団に与えられるものとは性格を異にする。温かい音色を基調としながら、音楽の刻々と変化する様相を、その時々に対応しいニュアンスで大胆かつ繊細に、確信を持って表現し切ろうとする、あくまで人間バッハへの共感を基調とする合唱団に対してのものなのである。

盛岡いのちの電話チャリティーコンサートへの出演は、1998,99年に続き、今回が3度目。一昨年12月の「オルガンと合唱が奏でるクリスマスの調べ」では、パイプオルガンを含む2台のオルガンと、ソロ及び合唱のハーモニーで絶賛を博した。

合唱団出演者

【ソプラノ】

浅沼 友絵	阿部友紀子	石岡 裕子 ●	大石 敦子	大川 敦子
小澤めぐみ	尾友 佳子	菊池 節子	熊谷 充代	斉藤 純子
佐々木裕美	佐藤 千砂	鹿内 夏子	柴田 久子	高橋 聡子
田村いずみ ●	土室 千春	軒 多賀子	福田 温子 ○	藤崎 美苗 ※
藤澤 智子	細田 彩子 ※	三原 佳織	守口由美子	矢幅 嘉子
横内 愛理	吉田 澄江 ○	渡辺真理子		

【アルト】

扇田 暁子	小川 暁美 ○	小川 暁子	小田島千恵 ●※	小野寺洋子
加藤緒理絵 ○	菊池 敏子	菊池 葉子 ※	桐原 絹子	工藤 由紀 ●
今野 早苗 ※	佐藤 公	佐藤 恵	鈴木栄見子	高橋 孝子
武田 敏恵	丹野 まり	千田加代子	早川英美子	原 穂波
平井 良子	廣瀬利津子	福田 祐子	宮野美佐子	茂木 容子
谷内畝晶子				

【テノール】

伊藤 勝元	太田 穎則	大森 元希 ●※	小川 隆弘	小山内 薫 ○
鏡 貴之	加藤 照道	金野 達徳	斉藤 健	嵯峨 文裕
中川 喜之	吉村 哲			

【バス】

赤塚 貴史	小原 一穂 ◎※	小原 竜太 ※	後藤 頼男	下田 潤
菅原 哲也	高橋 剛 ※	田沢 隆	千田 敬之	芳賀 郁夫 ●
松岡 静一	横山 泉 ○	渡辺 信之		

※印： ソリスト・伴奏者（一部曲目）

◎印： コンサートマスター

○印： パートリーダー

●印： サブ・パートリーダー